

悲願だった、春夏素材の受注会を開催します。大変遅くなりましたが2月末からの開催で、製造期間は約3週間です。是非お客様に呼びかけてください。

冬の峠は越したような春を予感させる時節になりましたね。寒いこの頃咲く花はどうして黄色が多いのでしょうか。

正月早々良い香りを振りまいていたロウバイ（蠟梅）。房総や薩摩半島から届いた菜の花のユース。盆栽仕立ての福寿草の花。野川公園のマンサク（万作）。

原料にもなるミツマタ。地中海に春を告げるミモザ。みーんな、黄色い花ですね。この時期、黄色を好む虫がいるのでしょうか。

どうしてかご存知の方。是非教えてください。

### 【春夏もの受注会を開催しませんか】

年に一回秋冬だけ収穫のリンゴ農家からなんと二毛作にしたいと願願し、準備した春夏の受注会がやっと出来るまでになりました。

春夏素材は、コットンカシミア、コットンシルク、スーピマコットンの3種類で、受注会は着丈、袖丈などの変更が可能です。

\*\*\* コットンカシミア・16色展開 \*\*\*  
 コットン100%より柔らかくとも軽いのが特徴で3シーズン着用で着られる優れたもの。

\*\*\* コットンシルク・8色展開 \*\*\*  
 コットン系の単糸とシルクの単糸を然り合わせた高級素材で発色の良い光沢と、しなやかな落ち感が特徴です。

\*\*\* スーピマコットン・8色展開 \*\*\*  
 アメリカ産コットンの最高峰、超長綿ので光沢のある発色が特徴。

春物としては出遅れの感がありますが、夏物としては今から十分間に合うと思います。製作期間は3週間程度です。カシミアをご用意いただいたお客様には是非お勧め下さい。

### コットンシルク円形アイレットVPOとVCD

No. 4012-1107 ¥29,000.+TAX  
 No. 4012-2108 ¥36,000.+TAX

円形のアイレット、袖口や衿のフリルが可愛く、楽しさいっぱい。半袖とカーディガンのアンサンブルで楽しんでみてはいかが。



ウスバシロチョウ

### コットンカシミア・アーガイル半袖PO

No. 4012-1119 ¥32,000.+TAX

すっかり定着したアーガイルはニューベージュともいえるアイテムで、タウンにもスポーティにも威力を発揮します。自分だけの色のアーガイルを作ってみませんか。



### スーピマコットン100%配色CPOとVCD

No. 4012-1110 ¥24,000.+TAX  
 No. 4012-2107 ¥32,000.+TAX

一見普通に見える半袖とVカーディガン、今トレンドの配色にすると貴方だけのオンリーワンファッション。



### 【南青山界限】 UTOはこんな街から発信しています

老舗スーパリーの21世紀は

青山通りと骨董通りがぶつかる丁字路の紀ノ国屋インターナショナルが建て替え工事を終え昨年の11月に再開しました。工事が始まるまで長い間空地でその後駐車場だったり、94年のサッカーワールドカップの時はナカタドットコムなどというカフェがオープンして、4丁目で仮営業をしていました。

日本一セレクトな食品スーパーの紀ノ国屋はサードビル満点で、買った荷物を係員が袋に詰められます。タクシードルで帰るといえば青山通りまで荷物を持ってきて、タクシードルを停めて、お客様を先に乗せてから荷物を渡してくれる、至れり尽くせりです。お金さえあればお買い物はこうあります。

そんなセレクトで、世界中から高級な食品をそろえている紀ノ国屋は引張りだこのように、羽田空港や駅ビルにも出店しています。表参道では地下鉄の駅構内にもOMO（オモ）という小さな店を出店しています。エコバッグを始めたのも紀ノ国屋はかなり早かったと思います。

買い物してスタンプが貯まれば、例のKINOKUNIYAというロゴマークの入ったエコバッグをもらえます。10年ぐらい前にももらったこのエコバッグはとも丈夫で重宝しています（今は売っていません）。

ビルの建設中、頸椎症を患って北青山病院に通院するときここを通ったんですが、工事用の案内板に高さ90メートルと書いてあったので「25階建てぐらいのビルができるのかな?」と思っていたら16階建て。ずいぶん天井の高い贅沢なビル、さすが紀ノ国屋だ」と感心していました。

工事が進んでビルが立ちあがってきて驚きました。なんとビルが逆三角形になっているんです。三角形のビルといえばすぐ近くの国連大学がそうですし、建物としては安定しているのが安心感があります。下より上の方が広がっているビルはなんとユニークです。でも中にいる人は気が休まらないような気がしますが。

再開した紀ノ国屋のビルは「AO」アオという名前のビルで、青山の青、会おうのアオらしい。いつも買い物をするわけではないのに、期待していたあの紀ノ国屋がオープンするたびに、期待してみます。驚いたというかガツカリというか、狭いんです。駅ビルの中にある店のようにちまちまとした感じで、以前の2フロアのゆったり感は全然なく、これでは国立などの支店の方がずっと高級感があります。

このニット便りの2003年の7号で紀ノ国屋を紹介し、その中で「明治42年の創業以来、世界中から珍しい食品を輸入販売するセレクト御用達の店は、世界中の食べ物が増える今、今後どんなビジネス戦略を持っているんだろう」と書きましたが、「この狭い、ビルの地下だけの営業」ということは、あの日本一の高級食料品店の紀ノ国屋の本店は「質」ビル業」になつてしまつたのかなあ?



\* ファッション販売員のための ニットの話 \* (二十八)

### 本当にカシミア100%ですか？

カシミアの混率証明書をお願いします

2008年秋のシーズン初め、カシミアの混率表示誤りがあり新聞やテレビで大騒ぎになりましたね。この事件はカシミアを主業としているUTOとしても大問題です。ショックだったのは伊勢丹やユニティッドアローズという誰もが知っている大企業だったことですね。

カシミアは普通のウール等比べて10倍位高価な原料なのでちょっとした混率の違いで大きく原価に影響するので混率を誤魔化してひと儲けしようとする輩が多いのです。

カシミアの混率を誤魔化して仕入れを安くしても発覚した時のリスクを考えると全く割りに合わないのが今回の事件は『引っかけた』と思うんですが、この混率問題はなかなか無くなりません。

それにしても、ウール50%、カシミア50%の商品でカシミアが0%だったという今回のケースは、毎日カシミアを触っているものとしてあまりにもお粗末と思うんですが、サンプルは本物が来ていざ現物となると偽物が入ってくるという詐欺みたいなこともあるというので絶対的に手を抜けません。

ファッション業界は法律の規制が少ない業界で、お店やパレルを開業するのに免許や登録がいることも無いし、どんな色の商品を作ろうがどんなデザインにしようが建築基準法のように規制があるわけでもありません。かなり自由な業界ですが、原料と洗濯と原産国の正しい表示は法律で義務づけられています。

UTOはカシミアがうりてほとんどの製品がカシミアですから、もし混率問題でカシミアが販売出来なくなったら即倒産で社員を路頭に迷わせることになってしまうので絶対に間違いは許されません。その為にも混率には神経を使いますが、一番のポイントは絶対に信頼できる先から原料を仕入れること、甘い話に乗らないことだと確信しています。

カシミアの製品ができるまでにはたくさんの人や会社を経なければなりません。

カシミアの原毛は日本では獲れないので紡績会社では輸入の度に自社や公の検査機関で原毛の混率を検査をしています。もちろん輸出する方も途中で異物が入らないように検査をして輸出します。異素材を混ぜるのは原毛のワタの時しか機会がありませんから、原毛の時点での検査が重要です。

このように厳重に検査しても、原毛を縛っていた筒が切れてその綿の繊維が混入して9.9%などという検査結果が出ることもあります。意図的以外で1%を超える異物混入

ということはありません。不測の事態に備える為に法律ではカシミアが97%までは100%の表示を認められていますが、ちゃんとしたルートなら3%も異物が混入することはまず考えられません。

UTOでは、三越さんの日本橋本店で受注会を。又、昨年からカシミアの最高峰といわれる中国内モンゴルの阿拉善(アラシャン)で獲れたカシミアを展開させて頂いています。これを開発するために三越商品本部の松本バイヤーと内モンゴルの現地まで行ってカシミア牧民の社さんと紡績会社を訪ねトレーサビリティを確認した商品ですが、それでも糸が日本に届いた時点で輸入元のリンドンさんから毛検査協会が検査してもらい証明書をだしてもらおうという念のいれようでした。

通常、『ケケン』と呼ばれる毛製品検査協会は海外などから輸入された原料や製品が表示通りの製品が消費者に届くように、不当表示を食い止める機関です。自己防衛の為にもしちゃんと検査・証明してもらおうことが重要です。以前、『カシミアとニットの話』という本を書いたときにお世話になった検査官の木村さんに検査の現場を見せて頂いたことがあります。顕微鏡で目視で検査されているのを目の当たりにして『大変な仕事だな』と思っただんですが、しかしこの検査、やってももう方は結構お金がかかるんです。

日本一厳しいといわれる三越さんの売り場に商品が出るには、カシミアを含んでいる商品はすべて検査を受けて証明書を出します。一品番ごとに証明を受けます。その証明を受けるには実際の製品を切って検査してもらえないので、高価なカシミアを切るときは情けなくってしまいます。売り物にならなくなった高価なカシミア一型ごとの製品代金と、証明書代金でかなりの金額になってしまいます。『頑張って販売しないと！』です。



佐中順子・ニットのたわごと

### 読書の不安



友人に借りた池波正太郎の文庫本、鬼平犯科帳を20年ぶりに読みました。面白くて全28巻をひと月くらいで読んでしまいました。

読書の時間は、休日以外は基本的には通勤時間などの電車の中です。しかし、武蔵小金井から吉祥寺までの朝の中央線は文庫本でも読める余裕はない『押しくらまんじゅう』の混雑状態ですから、本を読むのは井の頭線の始発の吉祥寺から渋谷までの間。おかげでいつもは憂鬱な通勤がとっても楽で、目的地についてもまだ乗っていたい(読みたい)というくらいでした。

読書好きというより、どっちかという読書癖に近い(人にも言われます)と思いますが、最近では電車のシートに座って読んでいるというウトウトしてしまうことが結構あります。

冬場の電車のシートはぼかぼかして温かいのでついウトウトなんです。20代から58歳の今まで、通勤電車が図書館がわりで、本を読んでいてウトウトするんだと絶対になかったんですが、やっぱり歳のせいなんだと対して危惧しています。

読書は、仕事などの勉強になる(と自分では思っている)本が主ですが、池波正太郎は完全に娯楽です。池波の作品は大好きでほとんど読みました。中でも『剣客商売』が大好きで今までに4、5回は読んでいます。爽やかな文章で透明感のある風景描写、水戸黄門みたいな勧善懲悪のストーリーで気楽に読めます。同じ小説を5年おきくらいに読むとだいたいあらずには覚えていても詳しくは忘れてしまっていて、新鮮な感じがしますが、その忘れぐあいに結構不安になります。

今回、約20年ぶりに読んで鬼平犯科帳は登場人物の一部以外はきれいに忘れていて、全く初めて読む感じでもともと面白かったんですが自分の記憶力の無さに愕然とってしまいました。本を買ってくれた友人に話すと、『自分も同じ』と返事して少し安心しました。でも希望的気休めかも知れません。

池波正太郎などの時代ものや歴史ものはオヤジ特有の読み物と思っていましたが、この頃は女性に人気があるようで、今回鬼平犯科帳を買ってくれた友人も女性もとうとう歴史の面白さに気付いたのか・・・。

世界のホテルを旅する (二十八)  
元、旅行屋のお勧め ドイツ ヴァイテンブルグ  
シュロスホテル・ヴァイテンブルグ

古城ホテルは街外れにあることが多く辿り着くまでけっこう苦労する時があります。南ドイツのチュービンゲンに近い今回のシュロスホテル・ヴァイテンブルグに泊まったときは大変でした。

スイスとドイツの国境近くにラインパッハというライン川最大の滝があります。この滝を見学し、ここはからそんなに遠くはないのと、夏のヨーロッパは日没が遅く意外な明るさに油断して思わぬ時間を過ごしてしまいました。夕食の時間に遅れそうです。

イタリア人のドライバーはドイツに入ってからハンドルと地図を片手に探しまわります。近くまで来ているはずなんですがなかなか辿り着きません。昔もキヨロキヨロ窓から探しています。

後で気が付いたんですが、街や通りはネッカー河の崖下に沿って、ヴァイテンブルグ城は断崖の上に建っている。車の視界からは崖が迫っていて全く見えなかったんです。街の人に教えてもらって、車から出て見上げて「ああーんだ、あれだ。」

遠慮しすぎた小さな標識に導かれ細い急坂を登ると視界がぱあーっと開けます。ネッカー河の上の台地。素晴らしい眺めです。目の高さには対岸の緑やかなうねりの畑や森が広がります。眼下にはネッカー河の緩やかな流れが尖塔を中心に黒い屋根の街の塊りを見下ろしています。お城の後ろは対岸と同じ広大な畑です。

ヴァイテンブルグ城は一七二〇年に建てられた石造りの質実剛健な建物です。いかにもドイツという感じ。内部はちょっと暗く、入って暗さに慣れた目に飛び込んでくるのが、壁にずらりと並んだ獲物の鹿の剥製に一瞬ドキッとします。調度や内装はいつも観光で訪れている古城そのもので、今日は自分がお城の住人がゲストです。

今日は古城の豪華なダイニングで、皆でおかしくして夕食です。お洒落は食事を美味しく頂くための最高の演出で、食事の場も明るく華やかにしてくれます。

美味しい料理と楽しいおしゃべりの食事が終わってデザートに移った頃、先に食事が終わった素敵な老夫婦が私たちのテーブルにいられて「皆さんとてもきれいですよ、今日は華やかで素晴らしいディナーの場を作ってくれてありがとうございます」とお礼を言ってくれました。『お洒落をしてディナーに行くことは、みんなで楽しく華やかな舞台作りに参加すること』なんです。うと

